第2回 SWIM コミュニティ (SWIMEE)

議事概要

日時：令和7年7月17日(木) 13:30～17:15

場所：中央合同庁舎3号館10階共用会議室(ハイブリッド会議)

- 冒頭、航空交通管制サービス高度化センター情報高度化推進課長よりコミュニティ参加者に対して感謝の意が述べられるとともに、この活動を今後のSWIMの改善や発展につなげたい旨が表明された。
- 航空局からSWIM管理者、レジストリ・サービス提供者、情報サービス提供者の紹介を行うとともに、以下の資料について説明を行った。
 - ✓ はじめに SWIM コミュニティ～SWIMEE～について
 - ✓ 第1回SWIMEEのふりかえり
- 航空局から「利用者別の主な利用対象な情報サービスについて」の説明を行うとともに、参加者との意見交換を実施した。意見交換の概要は以下の通り。
 - Web APIは開発・検証用のサーバーはあるのか。(航空会社A)
 - ◇ どのような環境が必要か情報サービス利用者の要望も踏まえながら検討していきたいと考えている。(航空局)
 - Pub/Subとメッセージ転送について、どのような使用例があるかご教示いただきたい。(航空会社B)
 - ◇ Pub/SubはNOTAMやATIS等の同一のデータを多数のサービス利用者に配信し、メッセージ転送は配信先のサービス利用者ごとに異なるデータを配信するイメージである。(航空局)
 - ブラウザでの利用にあたっては、スマートフォンなどの携帯用デバイスでの使用も考慮したインターフェースを設計していただきたい。(航空会社C)
 - ◇ 初期サービスの時点で、スマートフォンやタブレットの利用も想定している。利用者によっては使いづらい部分もあると思われるが、今後、利用者の要望も踏まえながら検討していきたいと考えている。(航空局)
 - ATS情報配信サービスの仕様について、Web APIやPub/Subの仕様及びサービスインについて、情報があれば共有してほしい。現在、サテライト空港運航管理卓の空港管理者機能を使用してATS情報を受信しているが、今後、自社システムへの移行を検討している。(空港会社A)
 - ◇ サービスインの時期は、改めて案内させていただきたい。(航空交通管制サービス高度化センター)
 - ◇ Web APIやPub/Subの仕様はAPI連携仕様書に記載されている。情報サービス概要及び説明書において、利用対象者は運航者及び空港管理者と記載されているが、空港管理者は対象から除く方針である。サテライト空港運航管理卓の空港管理者機能は、フライトプラン登録サービスに実装される。(航空交通管理センター)
 - ◇ 初期のATS情報配信サービスでは、現在の航空局システムと空港管理者で送受信する情報の全て

には対応していない。(航空局)

- ATS 情報リクエストサービスを利用する想定で考えていたが、空港事業者は利用できないのか。

(空港会社 B)

- ✧ 現時点では利用を想定していない。(航空交通管理センター)

- Web API で利用する際の ICD は、既に公開されているのか。その仕様に変更の可能性はあるか。

(空港会社 C)

- ✧ Web API 連携仕様書は、既に公開されている。内容が大きく変更することは想定していないが、マイナーチェンジの可能性はある。変更は、SWIM 運用規程に基づきバージョン管理し、変更内容を示したうえで、SWIM portal に順次公開させていただく予定。(航空局)

- 航空局主導で進めている空港ごとの航行不能航空機撤去計画の登録・申請を SWIM で行う予定等はあるか。(航空会社 A)

- ✧ 現時点において SWIM で取り扱うことは考えていない。ただし、将来的にはこのようなニーズを収集し、対応について検討していきたい。(航空局)

- 航空局から「SWIM におけるデジタル技術の利用」、「SWIM による可能性」、「SWIM サービス API の活用例」について説明を行うとともに、参加者との意見交換を実施した。意見交換の概要は以下の通り。

- Web API、Pub/Sub を使用したサービス別のサンプルプログラムの公開予定等はあるか。(航空会社 A)

- ✧ 実装可能なプログラム言語の種類が多岐にわたる点、どのサービスでも基本的なデータ取得のプロセスが同一である点からサンプルプログラムの公開は想定していない。ただし、次回以降の SWIMEE で Web API や Pub/Sub の利用方法について説明をしていく予定のため、そちらの回を参考にさせていただきたい。(航空局)

- 空港会社 A から「SWIM における運航計画書の電子化について」の課題提起を行うとともに、参加者との意見交換を実施した。意見交換の概要は以下の通り。

- ✧ 運航計画書は、FAIB においても運航者から提出されたデータをシステムへ手入力し、スロットが空いている時間帯を探す作業を手作業で行っている。運航計画書のマニュアル処理は、航空局側としても長年、課題として捉えていたところ。スロット・スポットリクエストサービスが導入されると、現在の手作業を大幅に効率化できる。また運航者においても当該サービスから申請してもらうことで、画面上で確保したスロット及び保持しているスポットの一覧を閲覧できるようになる。一方で、空港管理者とのスポット調整は、当該サービスにより申請はできるものの、航空局側から送付したデータを空港管理者側のシステムに取り込むことができないため、引き続き手作業が残ってしまう。今後、その点を解消するようなサービスを構築できないか検討しているところ。(東京 FAIB)

- ✧ 旧様式にこだわる部分など、運用の方法を変えていかなければならない部分について、SWIMEE のような場で業務のモデルチェンジを進めるための共通認識を図っていきたいと思っている。航空局としては、デジタル化実現のために運航計画書の既存様式から脱却したいと考えていたが、現状において運航計画

書をそのまま空港使用届として活用している空港もあり、検討を断念したところ。今回、空港会社からご提案いただいた内容は、非常に大事なことだと認識している。(航空局)

- 航空局から「スロット・スポットリクエストサービス（仮称）について」の説明を行うとともに、参加者との意見交換を実施した。意見交換の概要は以下の通り。
 - スロットリクエストサービスがサービスインすると現行の運航計画書の扱いはどうなるのか。運航者は引き続き現行の運航計画書を使用して申請することになるのか、それともスロットリクエストサービスで申請することになるのか。(空港会社 A)
 - ◇ スロットリクエストサービス導入後の運航計画書の取り扱いについて、サービス提供開始後も運航計画書は引き続き残る予定。航空局としては DX の観点から運航者に対してスロットリクエストサービスの利用を促していきたいと考えているが、運航者のニーズに応じて引き続き運航計画書を受付は継続したいと考えている。(東京 FAIB)
 - 運航者にスロットリクエストサービスを利用してもらった方が、データが入ってくるため、空港会社としてはありがたい。(空港会社 A)
 - このサービスは API 化も想定しているのか。地方空港含めた管理も自前のシステムを利用しているので連携しやすいようになればと考えている。(航空会社 A)
 - ◇ 当該サービス API 化について、検討を進めたいと思っている。(航空局)
 - スロットリクエストサービスは、運航者目線としても様々なメリットがあるサービスとして期待している。(航空会社 D)
- 航空局より「3rd_SWIMEE」について予定している議題等の予告を行った。